opusdei.org

オプス・デイの協力者、短い証言の10

スウェーデン、ロシア、日 本、スペイン、ベトナム、 ポーランドの協力者の証言を 紹介します。

2016/03/29

正しい道に出会う

キャロライン・イスラエルソン

ストックホルム (スウェーデン) 在 住 私は、二〇〇五年春、ヨハネ・パウ ロ二世の生涯の最期の様子をテレビ で見て、回心しました。言葉では説 明できない何かが、私の心の中で起 こったのです。痛みと、神様ご自身 と正しい道への強い望みがあまりに も強くて、信仰に戻るという素晴ら しい道のりをすぐに歩み始めたので す。ある日、ストックホルムのカテ ドラルで、オプス・デイの話をして くれる司祭を紹介されました。セン ターに通い始めて、黙想会や説教や ミサにも参加するようになりまし た。聖ホセマリアの教えは、人とし て、妻、母、娘、友としての自分を 成長させてくれました。すべての人 にとって聖性は到達可能なことであ り、自分の什事を通して他の人を助 けることができるのだと知ってか ら、私の人生は、新たな意味を持つ ものとなったのです。

ユートピアの彼方に

ユーリー・シモノフ

モスクワ (ロシア) 在住

理論物理学教授・放射線物理研究所 所長

ソビエト連邦時代には、宗教につい て言及することは禁じられていまし たが、人間の働きには神的な意義が あるはずだと、同僚たちと話してい ました。仕事を通して聖性に至ると いう聖ホセマリアの呼びかけは、 我々の社会にとって鍵となる重要な 点です。けれども、何よりもよくや り遂げた仕事が重要です。個人的に 向上するためだけでなく、人類の一 致を助けるために役立つからです。 聖ホセマリアが教えたのは、一人ひ とりのキリスト者は、自分の仕事を 完璧なものとしなければならないと

いうことです。そうして初めて、その仕事を神に捧げることができるし、清めと聖化の道となるからです。こうして、私たちを神との共同創造者にしてくれるのです。

一人ひとりの生徒は宝物

堀 光子

諫早(日本・長崎)在住

長崎精道小学校教諭

私が精道学園に勤務し始めたのは、 開校四年目のことでした。一番気に 入ったのは聖堂でした。私は信者で はありませんが、カトリックの高校 に通っていた頃、聖堂に行ってお祈 りをするのが好きだったからです。 この学校の魅力は、暖かくて家族的 な雰囲気と、子どもたちに対する教

調理場から

フアン・ペドロ・エスピノサ・サン チェス

ムルシア(スペイン)在住

ホテル経営・ムルシア料理長組合委 員長

私が協力者になろうと思ったのは、 聖ホセマリアの神への献身と、彼が 広めた家族の精神を知ったからで す。聖ホセマリアが「はい」と神様 に言った結果、私たちがここにいる のだとよく考えます。それ以来、家 族全員と私の什事とが変わりまし た。レストランで食事をしている二 百人のお客様を見ると、その人たち のために神様に祈ります。そうする ことが、神様とお客様とをつなげる ことになります。大皿の料理を調理 するときには、良い出来栄えになる ように、お客様が満足してくださる ようにと神様に祈り、こう言いま す。「神様、これはあなたのためで す!|

ベトナムで待ちながら

ファン・キム・ウイェン

タンビエン(ベトナム)在住

会社の人事部に勤務

オプス・デイについて初めて知った のは、教会の神父様からいただいた 『道』を読んだときです。自分の仕 事を通して聖人になれるというメッ セージに深く心を打たれました。大 学生として過ごした間、この本は私 にとっての霊的指導者でした。一九 七七年から、ホーチミンで行われる 毎月の講話とサークルに参加するよ うになり、協力者になりました。最 初は参加していたのは五名でした が、今は三十名になりました。教理 の資料をベトナム語に翻訳するのを 手伝ったり、黙想会や他の活動の際 の同時通訳をしたりしています。オ プス・デイのためにいつも祈ってい ますし、ベトナムで常住的な活動が 始まるのを心待ちにしています。

映画と舞台で

アダム・ヴォロノヴィッチ

ワルシャワ(ポーランド)在住

映画・舞台俳優

俳優の仕事というのは、良心的な問 題と向き合わなければならないとき がよくあり、信仰と一致した生き方 を貫くための力を必要とします。倫 理的にふさわしくない仕事を断るこ とは、将来の仕事を危険にさらすこ とにもなりかねないからです。です から、たとえば映画のシナリオの変 更を要求するとき、聖ホセマリアに 取次ぎを願うと、うまくいくことが よくあります。また、演劇の長い練 習の合間に、他の俳優たちに人生の 意味や家族のこと、成功や失敗の価 値などについて話すようにしていま す、

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shougen-10/(2025/12/11)